

全体主義体制下での美をめぐって

# エヴゲニー・ドブレンコ 講演会

Aesthetics of Terror and Terror of  
Aesthetics

(英語での講演です)

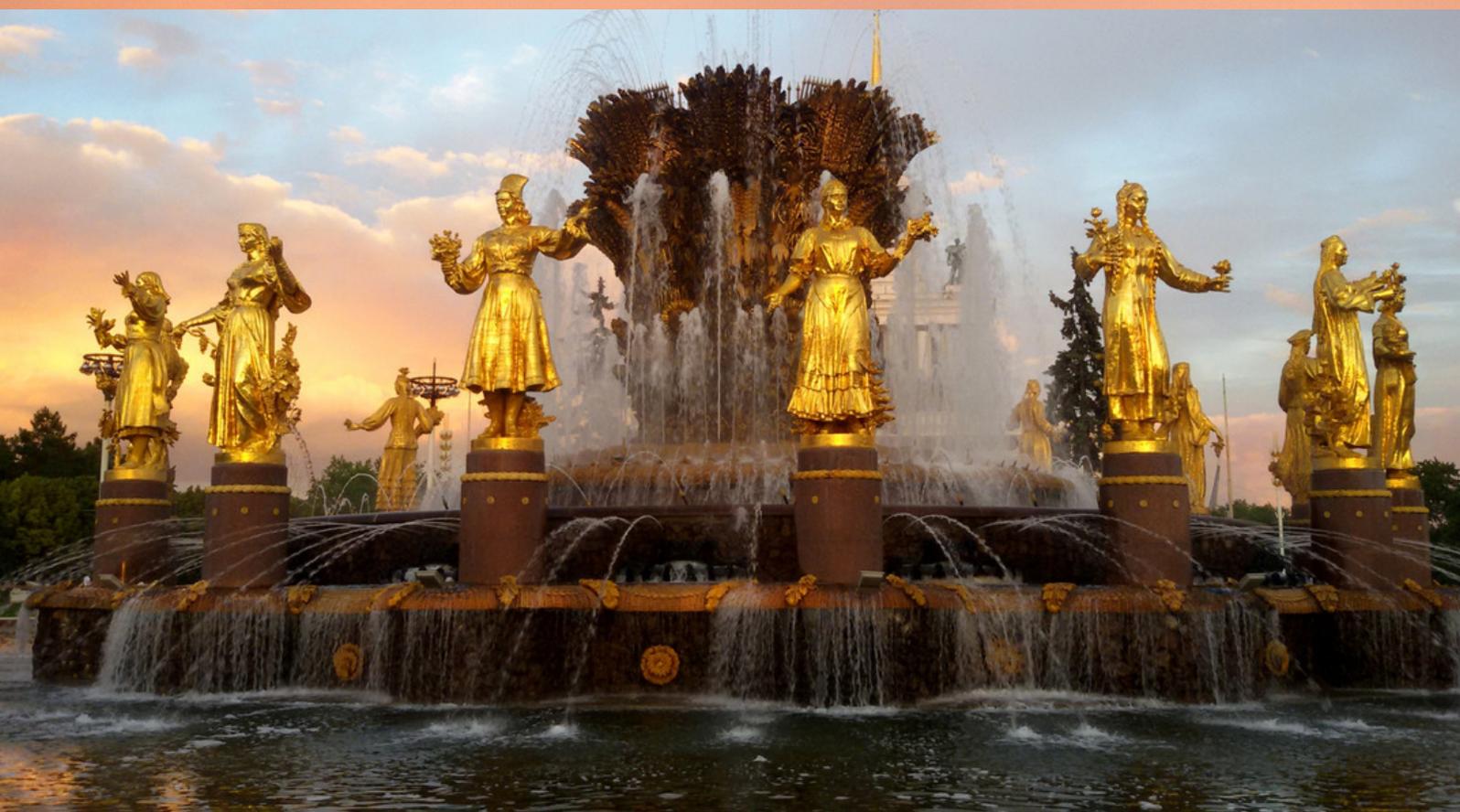


日時：2019年8月15日（木）

15:30～17:00(予定) 入場料無料、予約不要

場所：東京工業大学大岡山キャンパス 石川台1号館2階| 121講義室

対象者：本学学生、教職員、一般





「ドストエフスキーは美は世界を救う、と主張した。しかし、20世紀においては、スターリンのロシアであれ、ファシストのイタリアやフランコ将軍のスペインであれ、美は最も野蛮で抑圧的な体制によって利用された。近代へと移行するときに美はその神聖さを失った。神聖さの世俗的な等価物である「崇高」は、完璧な美のシミュレーションに基づいて反動的に大衆を動員するための文化的プロジェクトを創造した全体主義体制によって、政治的に利用された。したがって、全体主義のキッチュは、趣味の墮落として単純に理解されるべきではなく、文化の民主化の副産物であり、恐怖を正当化する手段として理解されるべきである。」

Evgeny Dobrenko (エヴゲニー・ドブレニコ)

シェフィールド大学、ロシア・スラヴ研究部門教授。北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター特任教授（本年9月-12月）。ソヴィエト文化、知の歴史、文学、映画、視覚芸術、建築、写真、メディア、音楽、社会主義リアリズム、批評理論などに関して20以上の書物の執筆および編集にたずさわり、8ヶ国語に翻訳されている。著作にStalinist Cinema and the Production of History: Museum of the Revolution (Yale University Press, 2008), Political Economy of Socialist Realism (Yale University Press, 2007), Aesthetics of Alienation: Reassessment of Early Soviet Cultural Theories (Northwestern University Press, 2005)など。

主催：東京工業大学リベラルアーツ研究教育院  
共催：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター  
後援：科研費 基盤(B)「ロシア・旧ソ連文化におけるメロドラマ的想像力の総合的研究」  
(研究代表者：安達大輔)

問い合わせ：河村彩 (リベラルアーツ研究教育院)  
kawamura.aya@ila.titech.ac.jp  
03-5734-3290

(会場は石川台地区石川台 1号館です)

